

序 文

本学会は、今年、2017年6月12日に創立120周年を迎えました。120年前の1897年（明治30年）に、日本機械学会として「機械及び機械システムとその関連分野に関する学術技芸の進歩発達をはかり、もって人類社会の発展と安寧及び福祉の向上に貢献する」との目的のもと、72名の正員により創立されました。そして、120年の歴史を経て今日、本学会は約35,000名の会員を擁する、規模においても我が国有数の大きな学会と成長いたしました。また、学術領域を示す22の部門、2つの推進・専門会議、また日本全国8地域の支部にわたる地域のネットワークを基盤に、日本に留まらず、世界的にも大きな影響を及ぼす学会となりました。創立120周年を迎えることとなり、誠に慶賀すべきことであり、ここまで本学会を築かれてこられました諸先輩方の多大な貢献と業績のおかげと、ここに深く感謝の意を表します。

この10年を振り返ると、我が国にとって幾つかの困難がありました。2008年にリーマンショックが起き、そのダメージから回復しつつあった2011年に東日本大震災が起きました。その際には、地震だけでなく、地震によって引き起こされた津波による被害と福島原発事故と、三つの惨事が日本を襲いました。科学技術のあり方自体が問われる中、本会は被害状況の調査を行うとともに、技術者および研究者として何を改善すべきか、学会として何ができるかといった視点から、組織的な活動を行い、また、社会にも情報を発信しました。

近年、世界的に科学技術の開発競争が熾烈化する一方で、オープンサイエンス、オープンイノベーションの動きがあります。今後、産官学の交流の場である学会の重要性は増すと考えられ、国際的な視野から学術界・産業界をリードし、複雑化する社会の要請に応えることが期待されています。本会は、これからも広範な分野を取り込み、イノベーションへとつなげていく横断的総合技術としての機械工学の強みを活かし、社会を変革し、人材育成に貢献していくと確信しています。

このたび、日本機械学会では創立120周年記念事業委員会（有信 睦弘委員長）のもと、多くの記念行事が企画されています。その一貫として、創立120周年を記念した「日本機械学会 最近10年のあゆみ」が植田利久委員長のもと編集されました。出版に際してご執筆いただきました方々、そして10年のあゆみ編集小委員会の皆様方をはじめ、ご協力いただきました方々に厚く御礼を申し上げます。

一般社団法人 日本機械学会
第95期会長 大島 まり